

2007年6月18日

A-TS 07-43 九州先進エンジンテクノロジー研究会  
第4回研究会 議事録

九州大学  
北川 敏 明  
森 上 修

日 時 2007年6月15日(金) 14:00~16:00  
場 所 福岡リーセントホテル  
出席者数 61名(うち委員出席14名:小野信輔,北川敏明,齊藤弘順,島筒修治,  
副島光洋,長瀬慶紀,浜崎和則,濱武俊朗,平山義則,  
村瀬英一,森上修,森脇博,和栗雄太郎,渡邊孝司)

内 容

話題提供

「ディーゼルエンジンへのいすゞ自動車の取り組み」

賀 川 義 雄 氏 (株式会社 いすゞ中央研究所)

いすゞ自動車のディーゼルエンジン研究・開発に関する近年の取り組みおよび今後の見通しについて説明があった。これまで EGR, 噴射圧の高圧化, クールド EGR により排気中の PM と NO<sub>x</sub> の低減が行われてきたが, 今後の更なる規制に向けて高クールド EGR, PCI, NO<sub>x</sub> 吸蔵還元触媒, フィルターにより対応していく見通しである。また, 過給を伴う排気量の最適化が必要である旨, 最適な多段噴射方法についての検討, 噴孔径・噴射圧と液滴径の関係が述べられた。今後は小噴孔径化, 噴射圧の高圧化が進み, 燃焼形態が予混合燃焼寄りになっていくと思われる。

以上